日本映像学会 第33回全国大会 研究発表プログラム

6/2 (sat)	1324A	1324B	1324C	1312	1313
11:30 - 12:10		B-01	C-01		E-01
12:10 - 12:50	A-01	B-02	C-02	D-01	E-02
12:50 - 14:00	昼食 (学内食堂をご利用ください)				
14:00 - 14:10	当番校挨拶【2号館224教室】				
14:10 - 15:10	特別講演【2号館224教室】 <総司会> 為ヶ谷 秀一 (女子美術大学 大学院美術研究科教授)				
	特別講演 1	『映画とテレビのデジタル映像制作における経験』 Experiences Creating Digital Imagery in Film and Television			
	映像出演	マーク・ディッペ氏 (映画監督)			
15:10 - 15:15	休憩 (5分)				
15:15 - 16:15	特別講演 2	『近未来のエンタテインメント —進化する映像から新しいモノづくりまで—』			
		稲蔭 正彦氏 (慶応義塾大学 環境情報学部教授)			
16:15 - 16:25	休憩 (10分)				
16:25 - 17:45	特別講演 3	『リブチンスキーの映像論』 ズビグニュー・リブチンスキー氏 (映画監督・女子美術大学芸術学部メディアアート学科客員教授)			
17:45 - 19:30	Welcome Party【2号館ロビー】				

6/3 (sun)	1324A	1324B	1324C	1312	1313
10:30 - 11:10	A-02	B-03	C-03	D-02	E-03
11:10 - 11:50	A-03	B-04	C-04	D-03	E-04
11:50 - 12:30	A-04	B-05	C-05	D-04	E-05
12:30 - 13:30	昼食 (お弁当引換券をお持ちの方は学内食堂にてお引き換えいたします)				
13:30 - 14:10	A-05	B-06	C-06	D-05	E-06
14:10 - 14:50	A-06	B-07	C-07	D-06	E-07
14:50 - 15:00	休憩 (10分)				
15:00 - 15:40	A-07	B-08	C-08	D-07	
15:40 - 16:20	A-08	B-09	C-09	D-08	
16:20 - 16:40	休憩 (20分)				
16:40 - 17:40	第34回通常総会【2号館224教室】				
17:40 - 19:30	懇親会【10号館1011スタジオ】				

6月2日(土) 研究発表 <11:30 - 12:50> ※会場受付は11:00より行います。

1324A 教室	C-02
A-01 映画の黙想について 飯村 隆彦 (映像作家)	C-02 複雑化する連続テレビアニメのシリーズ構成 ~『涼宮ハルヒの憂鬱』『ひぐらしのなく頃に』における 新奇的物語構造の考察~ 春日 太一 (日本大学大学院芸術学研究科芸術専攻博士後期課程)
1324B 教室	1312 教室
B-01 カタストロフ、ルサンチマン、スペクタクル—マキノ正博 『阿片戦争』による“パニック映画”の翻案について 鷺谷 花 (明治学院大学)	D-01 CAVE コンテンツの制作と教育への展開 羽太 謙一 (女子美術大学芸術学部メディアアート学科)
B-02 D・W・グリフィス監督による西部劇の主題的展開とその影響 檜山 博士 (早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程/ 東京国立近代美術館フィルムセンター企画普及部)	1313 教室
1324C 教室	E-01 映像教育：シューティングプランとしての画コンテ 竹内 正人 (日本工学院八王子専門学校/立教大学)
C-01 プロ育成のためのアニメーション教育 —カリキュラム編成について— 渡部 英雄 (日本工学院八王子専門学校マンガ・アニメーション科所属/ 日本大学大学院芸術学研究科芸術専攻博士後期課程在学)	E-02 映像のワンソースマルチユースにおける諸問題 フォーマット先行のデジタル化に関する考察 百束 朋浩 (日本大学大学院芸術学研究科芸術専攻博士後期課程)

6月3日(日) 研究発表 <10:30 - 16:20> ※会場受付は10:00より行います。

1324A 教室	C-07
A-02 心情に映る無限 ~ゴダール初期作品をめぐって~ 今村 純子 (女子美術大学/慶応義塾大学)	C-07 『椿三十郎』から『赤ひげ』へ /黒澤時代劇と受容モードの関連をめぐって 橋本 淳 (関西学院大学大学院文学研究科研究員)
A-03 オイディプス王にみる映画の物語性 高城 詠輝 (日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程修了)	C-08
A-04 歪なものの輝き —マーティン・スコセッシが描く個人と共同体の関係性— 山下 史朗 (日本大学芸術学研究科芸術専攻博士後期課程満期退学)	無声映画期の音響実践 —プログラム・選曲・伴奏上の諸問題について— 大傍 正規 (京都市人間・環境学研究所博士後期過程在籍)
A-05 古典的ハリウッド映画における映画音楽の誕生と変遷 —マックス・スタイナーの映画音楽を中心に— 尾鼻 崇 (立命館大学大学院先端総合学術研究科)	C-09
A-06 小説の映画化における実践的諸問題 純丘 曜彰 (九州東海大学准教授/大阪芸術大学客員教授/ 博士<美術、東京藝術大学>/文学修士<東京大学>)	1964年前後の松竹京都撮影所の時代劇 石塚 洋史 (帝塚山学院大学人間文化学部非常勤講師)
A-07 日本映画のヌーベルバーグとデジタル時代 齋 良根 (韓国崇実大学メディア学部 BK21 事業団専任研究員)	1312 教室
A-08 映像断片の継時的群化に関わる「演出」の効果 井上 貢一*、脇山 真治 (九州産業大学芸術学部デザイン学科)	D-02 ニューメディアアートの現在—日本的なフレームについて 李 容旭 (東京工芸大学芸術学部)
1324B 教室	D-03 MMORPG と Second Life に見る技術と文化の構造 沖 啓介 (関西造形大学 特任教授)
B-03 「男」の生きる道：戦時下の長谷川一夫と古川緑波 紙屋 牧子 (東京国立近代美術館フィルムセンター・客員研究員)	D-04 スリットカメラによる時間表現研究 石橋 悠子 (武蔵野美術大学 大学院 造形研究科 デザイン専攻 映像コース)
B-04 転換期の社会と日本映画：昭和8年(1933年) 宜野座 菜央見 (明治大学)	D-05 映像インスタレーションについて ：『Beyond Cinema』展をめぐって 伊奈 新祐 (京都精華大学芸術学部)
B-05 テレビにおけるドキュメントと非ドキュメント 齋藤 泉 (TBS テレビ報道局社会部・解説専門記者室)	D-06 デバイスアート：メディアアートの日本的展開とその意義の考察 草原 真知子 (早稲田大学文学学術院)
B-06 ロバート・アルトマンの映像表現の特質 桑原 圭裕 (関西学院大学大学院文学研究科美学専攻博士課程後期課程)	D-07 子供のための映像装置研究 村上 泰介 (愛知産業大学)
B-07 初期ビデオアートのメディアに対する批評性 阪本 裕文 (名古屋国立近代美術館フィルムセンター)	D-08 電子的視覚表示装置が示す視覚と触覚の関係 アイヴァン・サザーランド「究極のディスプレイ」と 藤幡正樹《禁断の果実》 水野 勝仁 (名古屋大学大学院情報科学研究科博士後期課程)
B-08 ミュンスターバーグの映画美学における「道徳的価値」 篠木 涼 (立命館大学先端総合学術研究科一貫制博士課程)	1313 教室
B-09 パトリス・シェローの映画における身体 大塚 美左恵 (大阪大学博士後期課程)	E-03 「マルチメディア自分史」による地域ミーム伝承の試み 前川 道博 (長野大学企業情報学部)
1324C 教室	E-04 オンプロシネマ作成ソフトの制作 過去の映像装置についてのデジタル教材化 松村 泰三 (東北芸術工科大学 情報デザイン 映像コース)
C-03 <触手>の吸引力 ~漫画アニメーションにおける<触手>についての試論 今井 隆介 (京都造形芸術大学 非常勤講師)	E-05 まちづくりと夢灯路 奥 正孝*、高倉 美佐子 (*羽衣国際大学 講師) (龍谷大学 学部生)
C-04 アニメーションおよびその研究における用語集・事典の構想について 小出 正志 (東京造形大学)	E-06 音楽表現としての映像作品 ~マクラレンの Canon, Le Merle, Rythmetic~ 栗原 詩子 (九州大学芸術工学研究科)
C-05 「リアリティ TV」時代におけるドキュメンタリー表現の変容 中垣 恒太郎 (常磐大学)	E-07 A Study on the elements generating the viewer participation in media art 金 圭正 (崇實大学校 IT 大学 Media 学部)
C-06 映画における視点と焦点化 木下 耕介 (群馬県立女子大学文学部英文学専攻科)	

●*は発表代表者です。 ●当プログラムは、都合により変更の可能性がございます。